

いわき湯本病院 渡邊 静(看護師 いわき健育会 訪問看護ステーション 所長)

功 績	いわき市民が心身ともに健康で、いきがいを持って生活ができる社会の実現に寄与するため、毎年開催されている第21回健康いわき21推進市民大会で功労者として表彰された功績。
推 薦 者	布施 由美 (看護部長/看護部)
推 薦 理 由	渡邊がいわき市の看護業界で実践してきた取り組みが、いわき市民が心身ともに健康で、いきがいを持って生活ができる社会の実現に寄与していると評価され、第21回健康いわき21推進市民大会で功労者として表彰されました。常に前向きに取り組む姿勢と、当院の看護部の取り組みを市民の方々に知っていただく機会をつくったため。

内 容

渡邊は、平成12年に38歳で看護の道に進むため、子育てをしながら看護学校に通い、卒業後、地域クリニックの外来・訪問看護を経験、平成21年に当院に入職しました。一般病棟、療養病棟で急性期・慢性期看護チームでリーダーシップを発揮するとともに、人生経験も豊富なことから後輩からの信頼も厚く、すぐにスタッフから頼られる存在となりました。当院が目指しているナイチンゲールの教えを自ら学び推奨し、「患者がその人らしく生きるために」を目標に看護実践を積極的におこないました。また、平成26年には「家族看護」の看護研究を行い、日本看護研究学会で発表するなど次第に当院になくてはならない存在となっていました。

平成27年に主任看護師に昇格後は、看護師長をサポートし、さらに実践のリーダーとして活躍し、平成28年には身体抑制を考える委員会の委員長として身体抑制ゼロを達成し、全国TQM学会で発表。看護協会出版「看護」に掲載され、現在も彼女の意志を継いだ後輩たちが身体抑制ゼロを継続しています。平成30年には所長として訪問看護ステーションを立ち上げ、地域が目指す「時々入院、ほぼ在宅」を病院と連携を取り実践。少しでもその人らしい生活が営めるように在宅看護の質向上に向けて貢献しています。特に今年度は訪問リハビリスタッフと共働することで患者数を大きく伸ばし、当院の安定運営にもなくてはならない存在となっています。

渡邊のこのような取り組みが、いわき市民が心身ともに健康で、いきがいを持って生活ができる社会の実現に寄与していると評価され、第21回健康いわき21推進市民大会で功労者として表彰されました。常に前向きに取り組む姿勢と、当院の看護部の取り組みを市民の方々に知っていただく機会をつくった渡邊を理事長賞候補に推薦いたします。